

『JVA 2019 年上半期(1 月～6 月) 統計調査結果』について

当協会はこのたび、2020 年上半期(1 月～6 月)の JVA 会員メーカーのビデオソフト出荷統計をまとめましたので、その概要につきお知らせいたします。

2020 年上半期（1 月～6 月）の実績について

1. 今期のビデオソフトの総売上金額は 714 億 3900 万円で前年同期比 92.1%だった。
そのうち、DVD ビデオは 339 億 3700 万円で前年同期比 91.8%、ブルーレイ (Ultra HD Blu-ray を含む。以下、ブルーレイと表記。) は 375 億 200 万円で同 92.3%となった。
DVD とブルーレイの構成比率は前年同期並みとなった。前年度までは、DVD はダウン傾向、ブルーレイは拡大傾向を示していたが、ここにきてブルーレイの伸長鈍化 (DVD の下げ止まり) を感じられる数値となった。

<添付資料 表 1 >

2. ビデオソフト全体 (DVD ビデオとブルーレイの合計) の売上金額を販売用、レンタル店用の市場別にみると、販売用が 579 億 8000 万円で前年同期に比べ 6.4%の減少だったが、レンタル店用は 129 億 5000 万円と 13.5%の大幅な減少となり、前年に引き続き縮小傾向が続いている。販売用、特殊ルート、レンタル店用、業務用の売上金額における割合は、81.2 対 0.3 対 18.1 対 0.4 となり、レンタルの割合の減少により市場における販売用のシェアが拡大している。

<添付資料 表 4 >

3. DVD ビデオの販売用売上金額は 220 億 7200 万円で前年同期比 95.1%、ブルーレイの販売用は 359 億 800 万円で同 92.7%とどちらも前年実績には届かなかったが、前年同期までの傾向 (DVD 約 20%ダウン、ブルーレイ前年並み) とは違い DVD は落ち込みの改善がみられる。販売用全体に占めるブルーレイの割合は 61.9%とり前年と同程度であった。

<添付資料 表 5A >

販売用全体の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比 1 位の『音楽(邦楽)』(38.3%) は、前年同期比 98.8%と前年並みの実績を残した。また、構成比 2 位 (25.7%) の『日

本のアニメーション（一般向け）も同 95.3%と若干伸び悩んだ。一方、『海外のアニメーション（一般向け）』（構成比 4.2%）は前年対比で 264.2%と大幅に伸長した。構成比 3位の『洋画（TV ドラマを除く）』（8.6%）は、前年同期比 66.0%と大きくダウン。構成比（6.2%）の『日本の TV ドラマ』は同 97.9%で、構成比順位で邦画をかわし 4位となった。構成比 5位（同 5.2%）の『邦画（TV ドラマを除く）』は、同 80.1%であった。

<添付資料 表 7>

4. DVD ビデオの販売用の売上金額は 220 億 7200 万円で前年同期比 95.1%だった。

ジャンル別に見てみると、前年同期に構成比 41.6%を占めた『音楽（邦楽）』は、前年同期比 106.7%となり構成比 46.6%となり、また、構成比 2位（13.2%）の『日本のアニメーション（一般向け）』が前年同期比 105.4%と貢献度は高かった。構成比（8.6%）の『日本の TV ドラマ』同 97.3%が、構成比（5.9%）の『邦画（TV ドラマを除く）』同 73.9%を抜き、構成比順位で 3位となった。構成比 2.1%と比率的には低いものの『海外のアニメーション（一般向け）』が前年同期比 629.3%と大きく伸ばした。

<添付資料 表 7>

5. ブルーレイの販売用の売上金額は 359 億 800 万円で前年同期比 92.7%の実績だった。

ジャンル別に見てみると、構成比 1位(33.5%)の『日本のアニメーション（一般向け）』、構成比 2位(33.2%)の『音楽（邦楽）』がそれぞれ前年対比で、93.1%、92.8%となった。前年実績が大きいだけに、残念な結果となった。構成比 3位の『洋画（TV ドラマを除く）』が同 68.4%とこちらはさらに振るわず、『日本の TV ドラマ』は同 98.6%と前年並みの実績を残すものの、『邦画（TV ドラマを除く）』は同 85.5%であった。DVD ビデオ同様の現象であるが、『海外のアニメーション（一般向け）』が前年同期比 231.6%と大きく伸ばし構成比順位で 4位（5.4%）となった。

<添付資料 表 7>

6. レンタル店用全体の総売上金額に占める DVD ビデオとブルーレイの構成比は、89.2 対 10.8 となりブルーレイの割合が 1 割を超えているが、相変わらず圧倒的に DVD ビデオが占めている。因みに前年同期と全く同じ比率となり、ユーザーの固定化が感じられる。DVD のレンタル店用の売上金額は 115 億 5600 万円で前年同期比 86.6%と縮小傾向が引き続き、ブルーレイも 13 億 9400 万円で同 85.9%とこちらも DVD ビデオ同様に前年同期縮小傾向が顕著になった。

<添付資料 表 5B>

7. レンタル店用全体の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比（21.6%）の『洋画（TV ドラマを除く）』が前年同期比 78.5%、構成比（18.1%）の『邦画（TV ドラマを除く）』

が前年同期比 76.9%と大きく売り上げを下げた。ユーザーレベルの消費行動の変化が推察される結果となった。一方、『日本のアニメーション(一般向け)』は前年同期比 102.3%で構成比が 20.7%となり順位 2 位となった。また、構成比順位 3 位の『アジアの TV ドラマ』は前年実績を上回り、健闘を見せた。

<添付資料 表 8 >

8. 売上金額を売上数量で割って単純に求めた 1 枚当たりの単価を見てみると、ブルーレイの「販売用」の平均単価が 5,624 円で前年同期比 97.0%と下回ったが、他は上昇した。

<添付資料 表 6 >

以 上

追記

<本統計調査報告についての注意点>

- 本報告は、JVA 会員社が発売、販売する自社作品および他社作品の出荷段階の売上をまとめた統計である。
- 返品分は金額、数量とも調査時点において差し引いている。
- DVD とブルーレイのコンボ作品はブルーレイにカウントしている。
- 「日本の子供向け(アニメーション)」などにある“子供向け”とは、目安として 9 歳以下の子供を対象とした作品のこと。
- ブルーレイの売上には Ultra HD ブルーレイの売上を含む。
- 「特殊ルート」とは、雑誌やコミック、食玩などとして他商品に付帯されるものの売上のこと。